

令和3年所信

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響により様々なイベントの開催が延期や見合わせとなるなど、市民生活をはじめ地域経済が大きな打撃を受けました。

本市におきましては、市民や事業者の方々を守るため、予算総額約16億2300万円の計4度にわたる別府市独自の緊急対策を実施しました。

その主な取組として、『雇用を守る』取組では、新型コロナの影響で休業中の人などを対象に500人規模の臨時職員を募集し、『事業を守る』取組では、店舗などの賃料や感染予防対策経費の助成、自主休業する事業者を対象とした支援金制度の創設などを行い、『市民の健康・生活を守る』取組では、消毒液やマスクなどの配布、市税等の減免・猶予制度の導入、市内での飲食や何でも使用できるプレミアム率30%の「別府エール食うぽん券」と「別府みんなにエール券」の販売、お得に宿泊できる「湯ごもりエール泊」の実施など、スピード感を持って邁進してまいりました。

このような中、別府市では「BEPPU×デジタルファースト宣言」の具体的な取り組みといたしまして、市税等のスマートフォン収納や公共施設でのキャッシュレス対応、様々な防災情報が各自のスマートフォンなどへリアルタイムで受信ができる防災放送アプリの導入、LINEと協働して全国初となる観光専用アカウント「別府市観光アカウント」サービスを開始いたしました。

また、痛みを伴う改革ではありますが、公共施設の機能を維持し、きめ細かいサービスの提供を今後行うため、公共施設の使用料と市営温泉の入浴料を改定いたしました。

今年は、延期されていましたが「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催予定であります。一昨年開催されたラグビーワールドカップ2019日本大会で国内外から多くの観光客の皆様を別府市にお迎えした経験を活かし、with コロナ時代の新しい観光施策を実践しながら、民間事業者や関係機関と連携し「稼ぐ力」の強化に取り組んでまいります。

4月には、旧南小跡地に「多世代交流健康増進複合施設」がオープンします。愛称は公募により『おひさまパーク』に決定いたしました。保育所、子育て支援センター、地域交流センター・児童館が入り、幅広い世代の方々に集い・学び・健康づくりの場を提供できる施設にしていきたいと思っております。

重要課題の一つであります新図書館整備事業につきましては、昨年のうちに数度のオープンプラットフォーム会議を開催し、広く市民の皆様からのご意見をいただいております。基本計画の策定を進める予定でした。しかし、今回の新型コロナウイルスの脅威を経験し、これまでの整備方針によることなく、さらに検討を進め、本市ならではの付加価値をもった、50年先の子どもたちにも残せる宝を創りたいと考えています。

別府ツーリズムバレー構想においても、別府の特色や多様性を活かして、新たな「しごと」をつくり「ひと」を呼ぶ仕組みを構築するとともに、起業創業などやる気のある人の着想の実現に向けた取り組みを支援し、本市の産業促進や経済の振興と定住促進を目指してまいります。

また大分空港が宇宙港に選ばれたことから、今後、宇宙関連産業の誘致にも力を入れていきたいと考えています。

また、現在市内には5つの大学、研究機関があり、多くの日本人学生と留学生が勉学に励んでいます。意欲のある優秀な学生の皆さんに別府に残ってもらい、また、別府に常に心を置きながら別府を一つの拠点にし、様々な世界を股にかけた活躍をしていただくために、「未来の別府をつくる一人になりたい」「別府で夢を実現したい」と思えるまちづくりを推進してまいります。

その他、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でなかなかスタートできていない事業などもありました。今年は、福祉サービスの充実はもとより、健康寿命の延伸と介護予防、認知症予防についての取り組みをスタートさせていきたいと考えております。

また、今はインバウンドをはじめ多くの観光客の皆様をお迎えできる状況ではありませんが、アフターコロナの観光を見据えて今から準備すべきことも沢山あります。

その中でも、私の公約でもあり、別府市総合戦略に掲げられております『東洋のブルーラグーン構想』も民間企業の投資により、実現に向け動きを加速してまいります。世界に冠たる温泉観光都市の圧倒的魅惑をもった、新しいスタイルの温浴施設の創造に向け取り組んでまいります。

これら重要課題の解決や施策の実現には、行政だけではできることには限りがあり、皆様との協働・連携が必須です。

「全ての施策の目的は市民の皆様幸せのため」ということを共有させていただきながら、持続可能な別府市の発展に向け取り組んでまいります。